

淀川区を知る—^{じゅうそう}十三の地名の由来—

十三の地名の由来については、以下の2説が有力ですが、そのほかにも、いくつかの説があります。

ひとつは、古代の土地の区画法である条理制によるとされる説であり、西成郡の起点飛田(今の阿倍野)を一条とし、北へ順に重ねていくと十三条が今の十三あたりになります。同じく淀川区内の十八条の由来もそれによります。

もうひとつは、淀川で上流から13番目の渡しがあったからとされる説です。

『淀川絵巻-びわ湖から大阪湾まで-』木村きよし著 保育社 1988 *

『角川日本地名大辞典 27 大阪府』角川日本地名大辞典編纂委員会編 角川書店 1983 *

『東淀川区史』川端直正編 東淀川区創設三十周年記念事業委員会 1956 *

『大阪の地名由来辞典』堀田暁生編 東京堂出版 2010 *

淀川区ホームページ

<https://www.city.osaka.lg.jp/yodogawa/page/0000000431.html>

「淀川区ホームページ」→「淀川区の紹介」→「区のあらまし」

『区の町名の由来』

この調べかたガイドでは、淀川区をテーマに4つのトピックを選び出し、それについて調べるのに役立つ情報源を、わかりやすく紹介しています。

淀川図書館に所蔵しているものは、書誌事項の後に*をつけて表示しています。(* の無いものも所蔵館から取り寄せできます。)

小学生から読めるものは書誌事項の後に  オムリンマークをつけています。

WEB 大阪市立図書館のホームページ

紹介した資料やホームページなどはほんの一例です。図書館ホームページ「おおさか資料室」や各館のページにも「よくある質問」や区に関する資料のリストを掲載しています。

より詳しくお知りになりたいときは、図書館のカウンターへご相談ください。図書館司書がお手伝いします。

調べかたガイド: 各区版

淀川区の調べかた

淀川区の史跡・名勝・建築

—香具波志神社—

淀川区の伝説—長柄の人柱—

淀川区の人物—沖野忠雄—

淀川区を知る

—十三の地名の由来—



淀川区マスコットキャラクター

ゆめ
夢ちゃん

大阪市立淀川図書館

〒532-0023 大阪市淀川区十三東1-18-18

TEL 06-6305-2346

<https://www.oml.city.osaka.lg.jp>

開館時間 火～金曜日(第3木曜日は休館)

10:00～19:00

土・日曜日、祝・休日 10:00～17:00

休館日 ●月曜日、第3木曜日(祝・休日は開館)

●年末年始 ●蔵書点検期間

淀川区の調べかた

Ver. 6 2026. 4改訂

淀川区の史跡・名勝・建築—^{かぐはし}香具波志神社—

香具波志神社(加島4丁目)は、959(天徳3)年に創建されたと伝えられる、歴史のある神社です。江戸時代には「加島稻荷」と呼ばれ、大坂、兵庫だけでなく、ずいぶん遠くからも参拝者がありました。1863(文久3)年建の本殿は、1995(平成7)年の阪神・淡路大震災で残念ながら倒壊してしまいましたが、その後、再建されています。

加島には1738(元文3)年に銭座が置かれ、ここで作られた銅銭類は「酒は灘、銭は加島」といわれるほど質の良いものであったと伝えられています。香具波志神社には、「鑄銭仕用帳」という貴重な銭座の記録が保存されており、「東淀川区史」にも取り上げられています。

また、「雨月物語」の作者として知られる上田秋成は、火事で焼け出されたのち、香具波志神社宮司藤家英の援助を受け、1773(安永2)年から三年たらずの間、この地に住んでいました。大阪市史跡顕彰碑として、「上田秋成寓居跡・加島鑄銭所(ちゅうせんしょ)跡」と記された石碑が鳥居の横に設置されています。

境内にはそのほかにも、戦国時代の武将楠木正儀(まさのり・正成の三男)が南北朝のころ、香具波志神社に祈願した際に愛馬をつないだという大楠の切り株(「正儀駒つなぎの楠」)が残っています。1938(昭和13)年には大阪府の天然記念物に指定されましたが、戦後の公害などで1970(昭和45)年に枯れてしまいました。しかし人々の信仰が厚いため、この木を保存することとなり、今は切り株の上に社を立てて、「岩木神社」と呼ばれる小さな神社の姿になっています。

『大阪史蹟辞典』三善貞司編 清文堂出版 1986 *

『淀川区の史跡と伝承』三善貞司編 大阪市淀川区役所 2002 *

『大阪府全志 巻之3』井上正雄著 清文堂 1985 *

『東淀川区史』川端直正編 東淀川区創設三十周年記念事業委員会 1956 *

淀川区ホームページ

<https://www.city.osaka.lg.jp/yodogawa/page/0000000467.html>

「淀川区ホームページ」→「淀川区の紹介」→「区のあらまし」

『区内のスポット』

淀川区の伝説—^{ながら}長柄の人柱—

「雉も鳴かずば打たれまい」ということわざで有名な「長柄の人柱」伝説ですが、その内容や場所については諸説あります。

淀川区との関係で言いますと、東三国にある大願寺に伝わる「大願寺縁起」に、人柱の話が出てきています。その縁起によると、「垂水の長者・巖(いわ)氏が天恩に報いるため自ら人柱になり、難事の長柄架橋も事なく終わった。巖氏の嫁いだ娘は、父の人柱以後悲哀に沈んで物を言わなくなった。止むなく里方に戻される途中、垂水の辺りで鳴いた雉子を夫が射たのを見て「物いわじ父は長柄の橋柱 なかずは雉子も射られざらまじ」と詠じてさめざめと泣き入った。」とされています。この詠じた歌についても資料によって語句の異同があり、ここでは『東淀川区史』によりました。

『東淀川区史』川端直正編 東淀川区創設三十周年記念事業委員会 1956 *

『わが町昔さが誌』三善貞司著 コミュニティ企画 1989 *

『大阪の橋』松村博著 松籟社 1987 *

『読みがたり大阪のむかし話』大阪府小学校国語科教育研究会『大阪のむかし話』編集委員会編 日本標準 2005 * 

淀川区の人物—沖野忠雄—

沖野忠雄は、1854(安政元)年に現在の兵庫県豊岡市に生まれました。官費によるフランス留学を経て、1883(明治16)年には内務省土木局の勤務となります。その後、1918(大正7)年に退官するまで、河川関係の仕事に携わりました。没年は1921(大正10)年です。彼の経歴については『沖野忠雄と明治改修』に詳しく載っており、顔写真等もあります。また、淀川工事事務所毛馬出張所敷地内に「沖野忠雄胸像」「淀川改修紀功碑」があり、紀功碑には中国治水の神禹王に匹敵する、といった内容が記されています。

沖野忠雄が土木監督署長として関わった淀川改良工事は、1896(明治29)年に国の河川法が制定され、沖野忠雄の提出した「淀川高水防禦工事計画意見書」がほぼ原案どおりに帝国議会を通過してから始められ、新淀川を開削するなどして、毛馬洗堰が完成する1910(明治43)年までの大工事でした。工事については『淀川百年史』に詳しく記されていて、「淀川高水防禦工事計画意見書」の原文も載っています。

『沖野忠雄と明治改修』土木学会土木図書館委員会沖野忠雄研究資料調査小委員会編集 土木学会 2010 *

『なにわの人物・再発見』三善貞司編 大阪市東淀川区役所区民企画室企画振興係 2004 *

『淀川百年史』建設省近畿地方建設局 1974 *

『大阪人物辞典』三善貞司編 清文堂 2000 *